

「満月」には厳密には3つの意味があります。一つは「見た目の満月」これは満月前後の～2日に見える月のことで、「満月型の月」とも言えます。二つ目は「満月の日の月」で、これは満月（月相14）になる日の夜に見える月をさします。三つ目は「満月の瞬間の月」で、月相が14.00になった瞬間の月のことです。これが天文学的には最も「厳密な満月（望）」と言えます。ただし、満月と月齢は基本的に無関係なことに注意が必要です。つまり「月齢〇〇の時に満月になる」という法則はないということです。具体的には「満月の月齢」は13.8～15.8の間で毎回変動します。

昨日は今年最後の満月「コールド・ムーン」でした。厳密な満月の瞬間は午前9時33分で、日本ではすでに沈んでいて見えませんでした。この場合、「沈む前の満月」（満月の日の未明の月）か「昇ってきた満月」（満月の日の夕方）を「満月」と呼ぶことになります。私が撮影したのは後者です。

撮影した時は「満月の瞬間」から約12時間経っていたので、すでにわずかに欠け始めているのがわかります。次の満月の瞬間は、2024年1月26日（金）午前2時54分です。実質的には1月25日（木）の晩の月が満月に一番近いでしょう。是非見たいと思っています。

